

わたしが住んでいるミュンヘンのアパートの周りには、外国人が多い。もちろん、自分も外国人であるが。つまりこの付近にはドイツ人でない住民が多いということだ。

隣のレストランはインド料理店。その前は中国人が中華料理店を営んでいた。その先にはイラン人のカフェがある。同じ通りには、ロシアからの移民の受け入れセンターもある。ここには昔、ヒックトラーがよく来ていた飲み屋があったらしいが爆撃され、いまはそっけないコンクリートの建物になっている。

なぜか英語で注文をとりたがる。英字紙 *Wall Street Journal* を置いているので時々、読みに行っている。向かいの新聞店の女主人はザーボさん。毎

ご近所は外国人ばかり

しはイラク人、名前もフセインさん。お豆腐を売っている食品店にはベトナム人とラフガニスタン人。アジア食品屋は韓国人にタイ人。八百屋はギリシヤ

朝6時から店を開けている働き者で、亡き夫はハンガリー人。並ぶのアパートにはフランス人、アメリカ人、中国人、イタリヤ人…。よく行く洋服の寸法直

と少子化により、これからドイツ人はどんどん減り、労働力が不足する可能性が強い。片や、日本でも外国人が増えているという



が、人口に占める割合はわずかに1・6%。しかし、日本もドイツと似て、高齢化と少子化が進んでいる。企業にとつて、優秀な人材を確保することが難しくなり、介護分野などに外国人が必要となってくるのは時間の問題かもしれない。
(文・福田直子 絵・熊谷 徹、ミュンヘン在住)
ホームページ
<http://www.tkumagai.de>